



次世代モビリティに向けたドコモの取り組み ～AI運行バス[®]のご紹介～

2020年10月11日

株式会社NTTドコモ 法人ビジネス本部

モビリティビジネス推進室



《 AI運行バス® 》の取り組み

AI運行バスとは、AIを活用したオンデマンド型乗合交通サービス。
移動需要に応じた供給の最適化をめざし、2019年度4月より本格サービス開始。

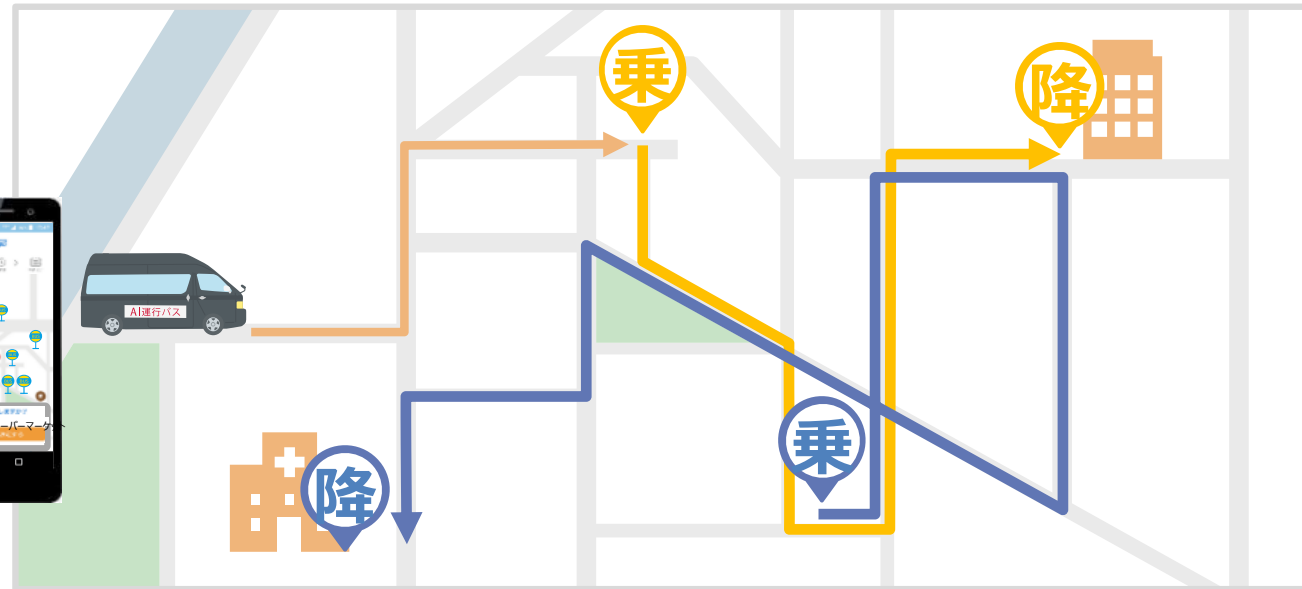
POINT 1
オンデマンド
乗りたいタイミングで予約
乗降ポイントを指定し
移動

POINT 2
**ダイナミック
ルート**
停車が必要な
乗降ポイントだけを
最適な順番で移動

POINT 3
乗り合い
他の利用者との
乗り合いで
より安価に移動



乗客はスマートフォンや
電話から乗車予約



全国22か所で有料/無料運行にて32万人超※の輸送実績



※2020年8月末時点

事例1. 地域住民主体によるAI運行バスの運行開始(河内長野市南花台地区)

複数回の勉強会でデマンド交通の習熟度を上げ、**地域住民主体**での運営
高齢化率が約40%であり、地域内移動手段が課題であり住民意識が高い

- 実証：2019年12月9日(月)から7人乗り低速運行のグリーンスローモビリティ※による運行
- 料金：**無料 (2020年中に有償運行予定)**
- 実績：**買い物目的**での利用が**約半数**を占め、**生活用途の移動手段**として積極的に活用

ロゴマークとネーミング



住民登録説明会の模様



※グリーンスローモビリティ：国交省と環境省が推進する、電動で時速20km未満で公道を走る4人乗り以上のモビリティ。公共交通の課題解決と脱炭素社会の確立を同時に実現する新たなモビリティとして注目。

事例2. 地域経済活性化に向けた二次交通の取り組み(大子町)

生活利用や観光利用時の交通の利便性向上に加え、**夜間の地元飲食店利用時の移動手段の提供（ナイトエコノミー）**により、地域経済の活性化を図る

- 実証期間：2020年10月1日～2021年9月30日
- 運行エリア：大子町内
- 料金：無料

夜間利用(17時から23時)のイメージ



自宅や会社から飲食店

飲食店から自宅・駅など

モビリティとサービスの連携は、移動に関する**社会基盤**となり、**持続可能なビジネス、持続可能な社会の形成**という点で重要な役割を果たす

モビリティ×サービスの例

モビリティ



×

店舗



- ◆観光客や住民の送客・利便性向上
- 商品配達（貨客混載）、店舗の売り上げ向上

×

医療



- ◆高齢者や妊婦等の送迎
- 診療予約と送迎の連携で確実な医療受診

×

介護



- ◆要介護者の送迎、訪問介護
- 利用者の利便性向上、送迎業務の効率化

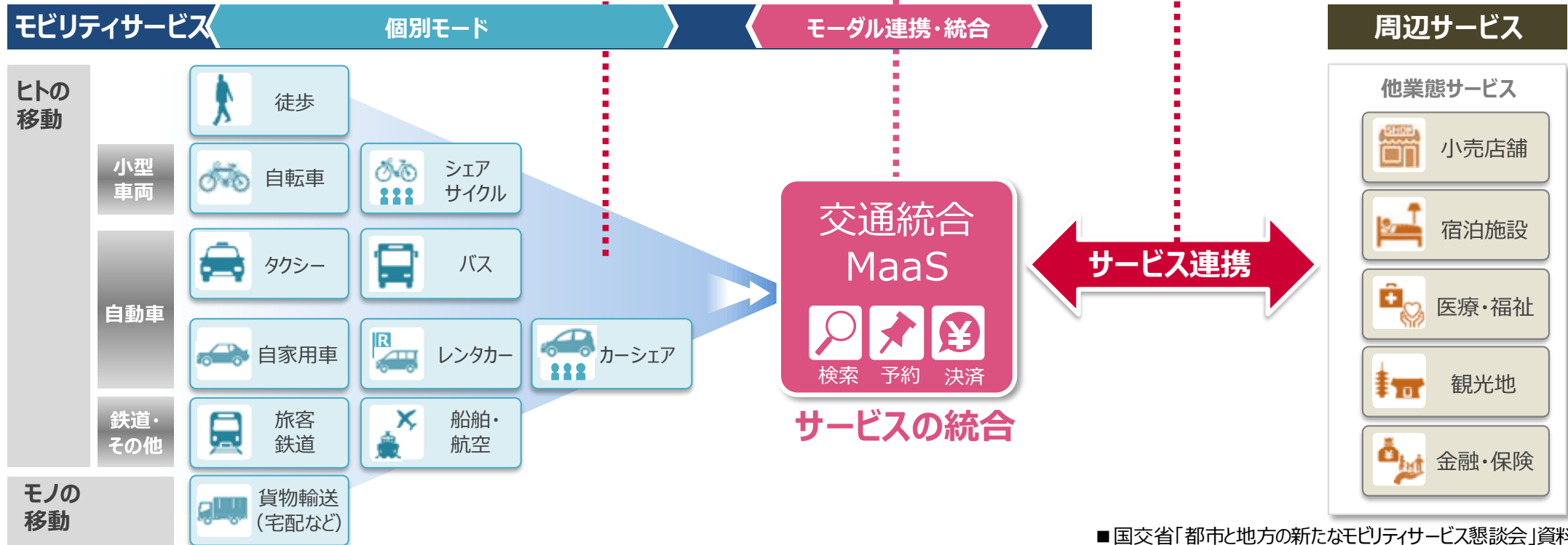
×

不動産



- ◆郊外住宅地と周辺施設の巡回
- 住民にやさしい地域づくり、不動産価値の向上

日本版MaaS：移動に関するさまざまな課題を解決するもの
⇒ “サービス”だけでなく、“複数の交通モード”との連携実現を目指す



■国交省「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」資料を参考にドコモ加筆

いつか、あたりまえになることを。



■ 本件問い合わせ先・紹介ホームページ

株式会社NTTドコモ 法人ビジネス本部 5G・IoTビジネス部
モビリティビジネス推進室

URL: https://www.nttdocomo.co.jp/biz/service/ai_bus/